

アプリ、はじめました。

第53回日本植物生理学会年会要旨集アプリ開発記

〈中西印刷 電子書籍チーム〉



ユーザーはどんな人? 意見を出し合いました。

要旨集のアプリの話がきて、機能を絞り込む

植物生理学会の、要旨集アプリの開発を検討し始めた時点で、優れたアプリケーションはすでに他学会で開発されていました。

そういった他のアプリを参考に、年会要旨集においてアプリを使用するような人物像や、どんなシチュエーションで用いられるか等をシミュレーションして、盛り込む機能を選定していきました。演題のプログラム表示機能、ブックマーク機能、検索機能、地図機能等です。ある程度の絞り込みが出来、開発が始まりました。

作ってみたら……

新しい技術を用いた開発はとても大変です。開発自体に加えて、App Store や Android Market (現在の Google Play) に公開する事、その他普通にスマートフォンで使えるようになるまで、やる事がたくさんあります。また、使ってみて初めて必要性に気付く追加仕様、開発プラットフォームの癖による問題、使用するデータの様式の問題、端末による見え方の差の問題 (画像データやページの自動回転) 等、様々な問題が発生しました。

どうしてもクリアできなかった問題もあることはあったのですが、最終版が何とか完成し、ご担当の先生から「格別」と一言いただきました。



紆余曲折を経て…… iOSでもAndroidでも使えます!



年会当日!

年会当日、説明の為に関係者二名ほどで、実験機を展示したり、アプリの説明をするブースを設けました。

「もう使ってるよ」という一言が多かったように思います。後日、500件近く、実に年会参加者の1/4にあたる方々がダウンロードしておられたのがわかりました。

これから……

おそらく抄録の電子書籍化という流れは、大きくなっていくのでしょう。

何より、検索ができるという事は本当に強いことです。

改善の余地はあるものの、「電子書籍というものがどうやってできるのか?」

という流れがわかった事は大きな財産です。

これからも電子書籍チームとしては、書籍 (主に要旨集) の電子化がどのような方向に進んでいくのか、動向を探っていきたいと思っています。

ひょーイチやら ヒョーさんやら

— 大会抄録集／企業広告のあれこれ —

大会・学術集会では抄録集・予稿集・要旨集が刊行され、大会参加者に配布されます。この発行で担当の主管校がご苦勞されるのが、企業広告集めです。大会の運営にとって重要な収入源でその取扱はとても重要です。予算規模の大きな学会では広告代理店が仲介して取り纏める場合もありますが、多くの場合予算的な制約から直接主管事務局で募集・取り纏めを行います。会頭・会長や事務局長の「営業力」が、ストレートに掲載数の多い少ないに反映される結構シビアな世界です。そこでしばしば問題となるのが、広告掲載の場所と掲載費用です。ここでクライアントである企業と主管事務局・抄録集制作会社の間で掲載位置＝頁場所の指定で共通した表記を決めておかないと、とんでもない誤解が生じて思わぬトラブルとなります。広告・製作の業界では広告掲載ページを次ぎのように決めています。

昨今の経済事情から企業の広告掲載意欲はかなり低下していて、掲載価格は相当に低下しています。また発行部数や参加者数、場合によっては開催地利便や企画内容なども企業の掲載動向に影響します。掲載価格の具体例を誌面でご紹介する事は出来ませんが、掲載費用を高く設定できる頁から順に例を示しておきます。

【表②】≡【表④】>【表②対向】>【表③】≡【前付2p→】>【表③対向】>【後付1p→[上段>下段]】

これは明確な基準がある訳ではなく、あくまで記者の経験則によるもので、その限りでご参照下さい。また昨今の学会事業法人化とも相まって大会抄録集での有料企業広告募集では「利益相反（COI=Conflict of Interest）」の学会規定を定め抄録集に「該当がない」旨明記される事が望ましいでしょう。

掲載費用の設定（目安）

【表②】≡【表④】>【表②対向】>【表③】≡【前付2p→】>【表③対向】>【後付1p→[上段>下段]】

【表①】

【背文字】

【表②】

【前付①】または【表②対向】

【後付】または【表③対向】（後付最終頁）

【表③】

【表④】

【表①】：タイトル頁の文字通り表紙です。ここに広告は入りません。

【表②】：【表①】の裏頁

【表④】：【表①】を裏返した後ろの表紙。

【背文字】：【表①】と【表④】に挟まれた縦のタイトル表記

【表③】：【表④】の裏頁

【前付広告】：表紙を捲って最初の頁から続く頁で、本文抄録等の前に入る。必ず掲載がある訳ではなく、無しの場合「大扉」や「会頭挨拶」等のトップ頁になる。

【後付広告】：抄録本文の後、抄録集の最後に続いて掲載される頁。上下二段や 1/4 サイズの広告はここに入る。

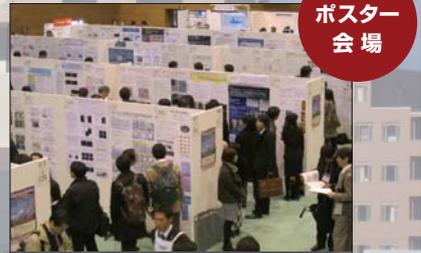
【表②対向】：【表②】に向き合う頁。【前付】の 1 頁目（トップ頁）と同義

【表③対向】：【表③】に向き合う頁。【後付】の最終頁（裏頁）と同義

手作りの工夫が溢れる大会に参加して

第117回 日本解剖学会総会・全国学術集会 [山梨大学] 参加レポート (記者: 井上)

会頭の私がおすすめるのよ。よかったします。よろしく。



二年ぶりの開催を信玄公が出迎え



駅前広場の信玄像

中西印刷がシステムアップした学会大会参加・演題登録システム=e-naf+ [イーナフプラス] を歴史ある日本解剖学会の第117回大会に採用いただいた関係で、登録システムの検証を兼ねて山梨大学甲府キャンパスで3月26日~28日開催された大会に参加しました。

日本解剖学会の年次大会は、昨年の第116回大会を第88回日本生理学会大会との合同で、横浜において開催する予定でしたが、3・11東日本大震災の影響から誌上開催に変更されたため、2年振りの開催となりました。初日(26日)当日は、激しい突風に雪が吹き付ける急峻な山々に囲まれた甲府盆地ならではの開催日でしたが、駅前で信玄公に迎えられての甲府入りとなりました。

目を見張った大会スタッフの細やかな気配り

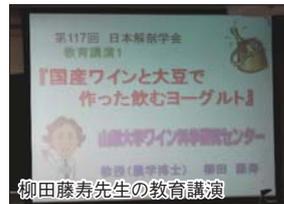
甲府駅北口から「武田神社」に向かってまっすぐに10分。会場の山梨大学甲府キャンパスは平面を広々と有効に活用しての運用となっていました。大学キャンパスを利用する場合、参加者は参加希望演題の会場に辿り着くのに結構手間取るものです。しかし今回はキャンパスに一步入るなり驚かされました。なにやらゼッケンをつけた人達がキャンパス内を走り回っています。「消防の訓練か」と思いましたが、大会参加者がプログラム集片手に案内を請うています。大会事務局スタッフは全員スタッフゼッケンを着用してひと目でスタッフと分かるようにして参加者の誘導をしていたのです。近づいて見ると持ち場係りと立場まで銘記されています。

会頭の大野伸一先生(山梨大学大学院医学工学総合研究部解剖分子組織学教室)にお尋ねしたところ「学生スタッフ含めて開催者の自覚を持ってもらい、参加者への気配りに徹するように全スタッフに訓示した」とのお話し。かく言う大野先生の胸にも「私が会頭です」のゼッケンが。道行く参加者に会頭自らが率先して「会場分かりますか」と声を掛けていました。総合受付も広くゆったりとしていて、会場を廻って隅々までこの会頭イズムが徹底されているのは清々しい思いでした。



大野伸一会頭

甲府と言えば、お目当てはワイン



失礼ながら学術面では門外漢の記者は、プログラムの中からお気に入りの演題を選んで聴講させていただきました。「教育講演1-『国産ワインと大豆で作った飲むヨーグルト』

柳田藤寿教授(山梨大学ワイン科学研究センター)

このお話でワインの素養を蓄えてポスター会場に向かいますと、体育館を全面使った会場でポスターセッションの真っ盛り。あちこちで熱いディスカッションが繰り広げられています。その一角には山梨物産展があり、中には山梨大学ワイン研究会の大野会頭「お墨付き」ブースもありました。記者は嬉々として試飲を続けた結果、赤・白1本ずつ買い求めました。



見事な富士山が参加者をお見送り



翌日は、前日の突風のおかげで見事な快晴となり市内のどこからも富士山が見渡せる甲府ならではの日和となり、参加者も随所で写真に収めていました。

甲府側から拝み見る霊峰富士山に見送られて、会場を後にする事になりましたが、参加させていただいた第117回日本解剖学会総会・全国学術集会は大野会頭の思い通り参加者への気配りが行き届いた大会でした。また準備・運営段階から本当に手作りの工夫と熱意に満ちた大会で、結果演題登録665演題・事前参加登録950名超となり、参加者向けに用意された大会オリジナル弁当も事前に予約切れ、更に当日参加者用に用意しておいた抄録集も初日で全て捌けてしまう盛会となりました。参加して頂ける大会でした。

次回第118回は2013年3月28日~30日、香川大学(会頭:竹内義喜先生)ご主管による高松での開催となります。(4-5面イベント情報参照下さい)
[第117回大会副会頭:竹田 扇(山梨大学大学院医学工学総合研究部解剖細胞生物学教室)]

新時代のオンラインジャーナルに向け共同事業を開始

学術情報XML推進協議会の設立について

学術情報が紙から電子へと急速にその流通媒体を変化させている。すでに英文の理系誌は100%オンラインジャーナル化されていると考えられるほど普及は急である。この中にあって、重要なのがXMLによる情報流通であることは、論を待たない。電子ジャーナルのディスプレイ画面も、紙媒体も共通のデータの上に実現するこの技術は今、学術印刷において必須の技術といってよい。XMLを採用することにより、(1)論文データが構造化され、電子ジャーナルにおけるプレゼンテーションの高度化が実現する、(2)リンクやセマンティック・タグの付与、図表など論文要素単位の配信、など加工・付加価値化が図れる、(3)メタデータの交換、アーカイブなど、標準化による流通促進がおこなわれる、などの利点が得られる。

ただ、日本では今までXMLの利用は、理系英文誌などごく一部に限られてきた。日本語によるXML組版は、ツールやDTDが不備なこともあり、まだほとんど手がつけられていない。そのため、日本の学術情報流通はいまだに紙を前提としており、電子ジャーナルもPDFによるなど、紙媒体ありきの状態は変わっていない。このことは、国際的な学術情報流通における日本の国際的地位の低下を呼ぶこととなり、その結果として、多くの著名な日本の学会が海外出版社へと情報流通を委託するような事態を招来している。これでは日本からの情報発信が大きく損なわれ、長期的には日本の学術振興に悪影響を及ぼすことさえ考えられる。

おりしも、J-STAGEはそのVersion3でファイルの全面XML化を打ち出しており、JATS1.0が日本語も含めた多言語対応をするなど、機は熟しつつある。われわれはこうした事態に鑑み、あらゆるステークホルダーを結集して、学術情報におけるXMLの推進を図るべきことを訴えるものである。XMLへの対応は焦眉の急である。何が、XMLの普及の障害となっているか、何をもちすればXMLが普及しうのかわれわれはそれを問い、こうした障害をひとつひとつ取りのぞいていきたい。

以上の視点に鑑み、ここに広く、学術情報のXML化のための推進協議会の設立をよびかけるものである。この協議会では広く関係者の意見を結集し、出版社や印刷会社へのサポートを行うとともに、公的機関への働きかけを計画している。また、日本語XMLの規格やガイドライン策定についても支援する。趣旨に賛同される関係各位の参加とご支援をお願いするものである。

2012年6月

呼びかけ人 (50音順)

- | | |
|-------|--------------|
| 小宮山恒敏 | 小宮山印刷工業株式会社 |
| 時実象一 | 愛知大学 代表 |
| 中西秀彦 | 中西印刷株式会社 事務局 |
| 橋本勝美 | 日本疫学会 |
| 林 和弘 | 科学技術政策研究所 |
| 宮川謹至 | 科学技術振興機構 |

平成24年度 科学研究費助成事業 (科学研究費補助金 (研究成果公開促進費)) 新規応募・採択状況

	応募件数	採択件数	採択率 (%)
学術定期刊行物	101	76	75.2%
欧文誌 (うち「特定欧文総合誌」として採択)	76	56 (2)	73.7%
和文誌	25	20	80.0%
学術図書	595	288	48.4%
データベース (うち「重点データベース」として採択)	163	68 (6)	41.7%
合計	859	432	50.3%

編 ◆ 集 ◆ 後 ◆ 記

消 費税の8%値上げが6月26日衆議院を通過し成立の見通しです。ここでその是非は論じませんが、今後も段階的に増税がされる前提です。学会運営には深刻な影響が出るでしょう。[消費税スライドの年会費値上げ] など定款の改訂など対応を迫られそうです。(チームリーダー/井上俊幸)

毎 年7月31日夜から8月1日早朝にかけて愛宕山山頂にある愛宕神社で千日参りが開催される。その時に参拝し「火酒要慎」と書かれた火伏札を購入すると千日分の火伏・防火の御利益がある。また3歳までに参拝すると一生火事に遭わないと言われていた。私が前に千日参りに行ったのが3年前なので、千日分のご利益がもうすぐ無くなる?! 今年は参加しようかな。(編集校正課/島田)

緑 あって、農家直送の野菜を時折分けていただいています。旬は短い、一斉に食べ頃になって大変、でもすごく美味しい! を実感しています。今は、トマトを毎日1個食して、積極的にリコピンを摂取中です。(学会部/糸魚川)

X ML組版版が始動しました。同じ組版オペレータの中でも、若者達は着々と新しい技術を身をつけていきます。感心しながらも、気張ってついていけるよう、緊張感の増す毎日です。(DTP課/志水)

梅 雨ですね。蒸し暑く湿気が多いのにはうんざりしますが、自然の匂いを楽しめる時期でもあります。雨が降るまえの匂いと雨上がり匂い、似ているようで少し違い、どちらも大好きです。冬の乾燥した日などに、ふと嗅ぎたくなるのですが、こんな匂いのスプレー缶どこかで売ってないかなぁ。(学会部/宇野)

ネ ットでいろいろな地域のラジオ番組を聞いています。雑音の中、深夜放送を聞いていた学生時代は、遠い思い出になってしまいました……。(ブリプレス課/石川)

7 月に入り本格的に暑くなってきました。皆様もご存知のとおり、今年は(今年も?)節電が叫ばれております。私自身、夏の間は「暑いから冷房付けたいし、でも節電しないといけなし……。」と心の中で葛藤する日々になりそうです。(DTP課/中村)